

糖尿病学会・糖尿病対策推進会議との連携研究の策定

研究分担者 植木 浩二郎 東京大学医学部附属病院特任教授

研究要旨

これまでの糖尿病に関する臨床試験などを検索し、有効な糖尿病性腎症の発症・進展防止法のエビデンスを収集した。また、日本糖尿病学会・日本糖尿病対策推進会議の活動と本研究における糖尿病性腎症重症化予防プログラムの連携法を検討した。

A. 研究目的

これまでの糖尿病の臨床研究等における腎症の発症予防・進展抑制のエビデンスをもとに日本糖尿病学会や日本糖尿病対策推進会議の活動と連動する腎症重症化予防プログラムを構築する。

B. 研究方法

過去の臨床試験について、文献検索による腎症の発症・進展予防のエビデンスを収集する。また、現在、日本糖尿病学会や日本糖尿病対策推進会議が展開している糖尿病対策事業を調査して、それらと腎症重症化予防プログラムとの連携方法を検討する。

（倫理面への配慮）

文献的検討等を主体とする研究であり、特に倫理的に配慮を要する事項はない。

C. 研究結果

糖尿病性腎症病期分類の根拠となっている論文、低蛋白食による介入論文、現在進行中の介入研究、透析予防指導管理の実態などにより、現在の血糖・血圧管理のターゲット、蛋白制限の目安を明らかにした。

D. 考察

最近の研究では、種々の介入によってアルブミン尿に関しては、寛解なども多くみられるようになってきている反面、eGFRの低下抑制のエビデンスはまだ少ない。また、

高齢者に対する介入方法についても研究が少ない。

E. 結論

現在、日本糖尿病学会や日本腎臓学会のガイドラインに沿った病期診断、治療を行うことで腎症の発症・進展を予防できると考えられるが、このためには、日本糖尿病対策推進会議の活動なども活用した啓発活動が重要であると考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Ueki K, Sasako T, Kato M, Okazaki Y, Okahata S, Katsuyama H, Haraguchi M, Morita A, Ohashi K, Hara K, Morise A, Izumi K, Ohashi Y, Noda M and Kadowaki T. Design of and rationale for the Japan Diabetes Optimal Integrated Treatment study for 3 major risk factors of cardiovascular diseases (J-DOIT3): a multicenter, open-label, randomized, parallel-group trial. *BMJ Open Diabetes Res Care* 4:e000123, 2016

2. 学会発表

なし

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

特に無し

2. 実用新案登録

特に無し

3. その他

特に無し